

## I C T活用工事（土工 1000m3 未満）積算要領

## 1. 適用範囲

本資料は、以下に示す土工量 1000m3 未満の I C Tによる土工（以下、土工（I C T）（1000m3 未満））に適用する。

## 2. 機械経費

## 2-1 機械経費

土工（I C T）（1000m3 未満）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。

なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

## ① 土工 1000m3 未満（I C T）

I C T建設機械名	規格	機械経費	備考
バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (第 3 次基準値)、 山積 0.45m3(平積 0.35m3)	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上

## 2-2 ICT 建設機械経費加算額

## 2-2-1 損料加算額

ICT 建設機械経費損料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち損料にて計上する ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

## (1) 土工 1000m3 未満（I C T）

対象建設機械：バックホウ（I C T施工対応型）

損料加算額：5,470円/日

## 2-3 その他

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

## 2-3-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

## (1) 土工 1000m3 未満（I C T）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}}$$

(注) 作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。

(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。

## 2-3-2 システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

土工 1000m<sup>3</sup> 未満 (ICT)

対象建設機械：バックホウ

費用：ICT 建設機械経費損料加算額に含む

## 3. 3次元設計データの作成費用

3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

## 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。

## 5. 積算方法

受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、[ICT 建設機械使用割合 100%]を用いて積算するものとする。

### 【参考】

#### 1. 施工歩掛

##### (1) 土量の表示

すべて地山土量で表示する。

##### (2) 土質区分

日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。

表 1.1 土質区分

土 質 名	分 類 土 質 名
レキ質土, 砂利混り土, レキ	レキ質土
砂	砂
砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土
粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土
岩塊・玉石混り土, 破碎岩	岩塊・玉石

## 1-1 オープンカット（バックホウ掘削）

### （1）日当り施工量

オープンカット（バックホウ掘削）の日当り施工量は、次表を標準とする。

**表 1.2 オープンカット（バックホウ掘削）日当り施工量（1日当り）**

作業の内容	名称	土質名	規格	単位	数量	
					障害	障害
オープンカット 1,000m <sup>3</sup> 未満	バックホウ (クローラ型) 運転	レキ質土・砂・ 砂質土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	m <sup>3</sup>	169	83
		岩塊・玉石	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	〃	129	64

## 1-2 片切掘削

### （1）日当り施工量

片切掘削の日当り施工量は、次表を標準とする。

**表 1.3 片切掘削（人力併用機械掘削）日当り施工量（1日当り）**

作業の内容	名称	土質名	規格	単位	数量
片切掘削 1,000m <sup>3</sup> 未満	バックホウ(ク ローラ型)運転	レキ質土・砂・ 砂質土・粘性 土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	m <sup>3</sup>	164

(注) 1. 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。  
 なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。  
 2. 上表にクレーン作業は含まない。

### （2）人力掘削歩掛

片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。

**表 1.4 片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛（100m<sup>3</sup>当り）**

名称	土質名	単位	数量
普通作業員	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	人	3.9

(注) 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。  
 なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。

## 2. 単 価 表

### (1) オープンカット（バックホウ掘削）100m<sup>3</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	100/D	表4.2
諸 雑 費		式	1	(まるめ)
計				

(注) D：日当り施工量

### (2) 片切掘削（人力併用機械掘削） 100m<sup>3</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表4.4
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	日	100/D	表4.3
諸 雑 費		式	1	(まるめ)
計				

(注) D：日当り施工量

### (3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) (オープンカット)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) (片切掘削)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械損料数量→1.33